



オランダ人デザイナー、Gerard der Kinderen (ゲラルド・デル・キンデレン) のClothtable (クローズテーブル) が今年の東京デザイナーズウィーク・オフィシャル・テーブルとして選出されました。

<ニュー・ダッチデザイナー・ゲラルド・デル・キンデレン>

デザイナー、ゲラルド・デル・キンデレンは、プロのデザイナーを目指し、その20年に渡るコミュニケーションビジネス業界でのクリエイティブ/戦略ディレクターとしてのキャリアを辞めて、転身を計りました。昨年12月より活動を開始し、現在では20あまりのデザイン・コレクションがあり、海外のメジャーマーケットでは既に彼の作品は注目を集めつつあります。今年、ミラノで行われた”デザイナーズブロック”ではサプライジ的な「Cloth Table」と「Soft Square Chair」という名前のテーブルと椅子を発表。「人々を笑顔に導くモノ。私はそういったモノを愛している。」ゲラルドは言います。「Cloth Table」はヨーロッパとアメリカでは既に商品化に向けて準備ができています。

20年の時を経て、ゲラルドは家具のデザインを再び始める事を決意しました。彼は80年代始めに3年程アイトフォーヘン・デザインアカデミーに通い、オランダでは初めての「ダッチデザインショップ」をオープンします。そして2年後に閉店し、デザインとコミュニケーションのエージェンシーを立ち上げました。昨年12月にそのエージェンシーを売却後、そこで働きながら同時に家具のデザインを再スタートさせました。クリエイティブ/ストラディジー・ディレクターとして働きながらも、次第に仕事に対する気持ちが薄らぎ、よりプライベートで使用されるデザインプロダクトを製作する事への愛着が強まっていくのを感じたゲラルドは、昨年12月に1ヶ月休みを取り、その間に浮かんだ様々なデザインを1月の中旬には20ものデザインコレクションとして製作していたのです。そしてついに、クリエイティブ/ストラディジー・ディレクターとしての仕事を辞め、本格的にデザイナーとしてのキャリアをスタートする事を決意。2007年2月1日に新たなスタートを切ったのです。

「デザイナーへの転身は簡単な決断ではなかったが、作品のなかにある沢山のポジティブな要素が、キャリアを動かし、決断をしたとたん、20年ぶりに我が家に帰って来た様な気分になったのです」と、ゲラルドは述べています。ミラノで発表されたコレクションは、3ヶ月間、彼がデザイナーとして過ごして来た事の結果です。

www.gerardderkinderen.nl
www.gerardfromholland.com

<デザインについて>

昨年、ゲラルドは二つの特別なマテリアル、亜鉛とラッカー塗装フォームに出会いました。「新しい」亜鉛は、持続可能で、環境にも優しく、アウトドアにも、インドアにも通している素材です。ゲラルドはこの「新しい」亜鉛を使い、いくつかのテーブルと椅子のデザインをしています。ラッカー塗装フォームも非常に特別な技術から成るコーティング剤で、耐久性があり、インドアにもそしてアウトドアに適しています。長持ちするフレキシブルなコーティング剤として、アウトドア使用を可能にするのと同時に、家具としての質と心地良さも実現しました。

ゲラルドは商品化ビジネスのプロにサポートを受け、とても短い期間で自身のデザインを完成させる事が出来ました。「全てはデザインコンセプトから始まる。しかし、大変なのはそれからだ。自分にとってのデザインとは、コンセプトから最初の商品シリーズが出来上がり、ユーザに届く迄の過程全てと考えている。私は全ての責任を取るのだから、それでGerard From Holland という自分のデザインレベルを立ち上げたのだ」と、とゲラルド。現在、すでにいくつかのデザインが、有名な企業からの注目を浴びています。「Cloth Table」は2008年、ロンドン、パリ、ニューヨーク、東京のコンランショップで販売される予定。また東京デザイナーズウィーク2007のカフェでも公式テーブルとして、使用されます。



Name Gerard der Kinderen
 Country The Netherlands
 Cell phone +31 (0)6 53 42 85 64
 E-mail gerard@derkinderen.nl

Japan (Press contact) waco production
 E-mail info@wacopro.net
 Internet www.gerardfromholland.com

